HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	観光創造学への挑戦 ： 北海道大学観光学高等教育センター ： 7年の歩み
Issue Date	2013-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/87580
Type	other
File Information	CATS_7years.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

次世代ツーリズムの創造研究

観光創造学への挑戦

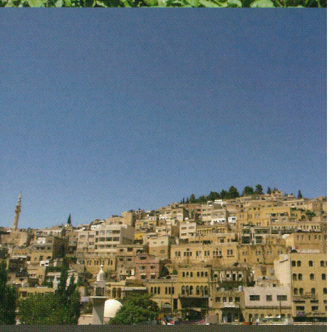
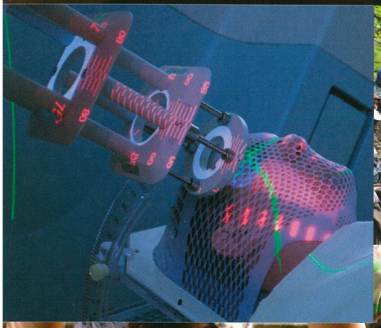
北海道大学 観光学高等研究センター

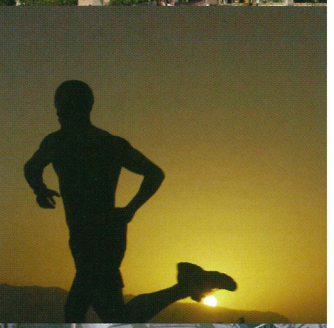
――7年の歩み――

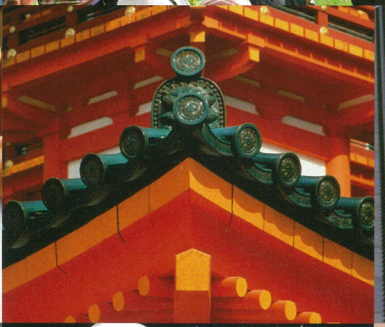
2013年3月

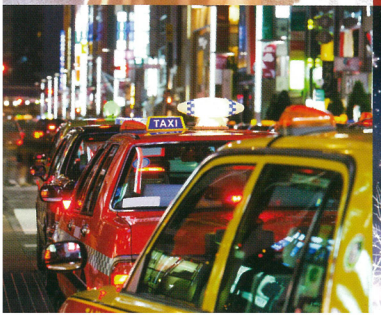









TAXI



観光立国日本のさらなる発展をめざして。

北海道大学観光学高等研究センターは、2006年４月に観光に関する総合研究機関として創設された。
また、翌2007年４月には、観光分野の高等教育機関としての大学院観光創造専攻が新設された。
我が国の観光立国を支える国立大学初となる高度人材教育機関・総合研究機関が
北海道大学に整備されて以来７年間の歩みをここに記す。

INDEX

観光学高等研究センターご紹介 …… 2
センターの長期理念 …… 3
沿 革 …… 4
センターの活動状況と研究チーム体制 …… 6
総括チーム …… 8
文化資源マネジメント研究チーム …… 10
観光人材育成研究チーム …… 14
観光連携研究チーム …… 18
2012年度　受託研究一覧 …… 20
大学院（観光創造専攻） …… 22
特別プロジェクト …… 24
研究成果の社会還元事業 …… 26
出版物・新聞掲載 …… 28
スタッフ …… 30

観光学高等研究センターのご紹介

わが国は、2003年に観光立国宣言を行い、観光を国家的課題と位置づけた。この背景の一つには、地球的規模での人の動きの活発化への対応という国際的な側面がある。UNWTO（World Tourism Organization 世界観光機関）は、2010年における全世界の外国旅行者数が10億人に達したことを明らかにした。さらに、UNWTOの予測では、外国旅行者数は2020年には15億6000万人に増加するとしている。このような地球的規模での外国旅行者の劇的増加に対応して、政府は観光立国宣言を行い、国を開くことによって、日本の経済・文化的活性化に役立てようとしている。

もう一つの背景として、少子高齢化に伴う日本の各地域の衰退化への対応という国内的な側面がある。観光が担うべき目標は、短期的には観光を基軸にした「地域再生」の実現であり、中期的には「美しい日本の再生」や「文化創造国家」の実現ということになる。そのためには「交流人口の拡大による地域活性化」が不可欠であり、観光を基軸にした「地域再生」事業が重要にならざるを得ない。

このように、観光立国はすでに国家的課題になっているが、日本の大学の研究者による研究成果を十分に社会に還元するためのシステムづくりが行われていないのが現状である。

本学は、2006年４月に「次世代ツーリズム」や「ツーリズム・イノベーション」などに関する総合的かつ先端的研究に研究に基づいて「21世紀型観光の創造」に貢献するとともに、観光による地域活性化、観光産業の転換、ライフスタイル・イノベーション、観光分野の国際協力によって、世界平和や新しい文化の創出、成熟社会の実現などに貢献することを目的とした、国立大学初となる「観光に関する総合研究機関」として観光学高等研究センターを創設した。

Hokkaido University
Center for Advanced Tourism Studies



長期的理念（設置目的等）

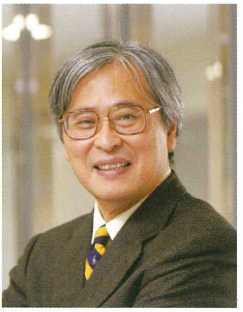
1. 観光に関する総合的な学術研究を行う。
2. 観光に関する内外の情報及び資料を収集し、提供することにより、地域社会と連携して観光を基軸にした地域活性化を図る。
3. 観光学に関する研究者のネットワークを構築する。

研究目標／第二期（2010年度～2015年度）

1. 次世代ツーリズム※創造に関する総合的・学際的研究を行う。
   - ●観光創造学の確立を図るための研究
   - ●観光創造士制度の創設などによる観光振興に寄与する人材育成制度の設計
   - ●観光を基軸にした地域再生モデル事業の実施
2. ふるさと起業（生業興し）による地域振興の調査研究を行う。
3. 民産官学の協働による観光を核にした地域再生実現のための調査研究を行う。

※次世代ツーリズム：従来の観光の概念を超える新しい観光のあり方。具体的には、これまでのツーリズムの利点を活かしつつ、欧米のライフスタイル刷新・新産業・アジア伝承文化・価値観の再評価に依拠した地域活性に資する新しい観光のあり方。

観光学高等研究センター 初代センター長



石森　秀三 Shuzo Ishimori

元国立民族学博物館教授（文化資源研究センター長）。2006年4月に北海道大学観光学高等研究センター長に就任。小泉内閣の観光立国懇談会委員として日本の観光立国政策を理論的に支える。観光革命、観光ビッグバン、自律的観光、文明の磁力など、新しいコンセプトを提唱し、日本における総合的な観光研究をリードする。

CATS沿革

2006年4月　観光学高等研究センターが設置され、初代センター長に石森秀三教授が就任

2007年4月　観光学高等研究センターに5名の教員が配置。計6名体制になる。

観光学高等研究センター教員が参加する形で、大学院国際広報メディア・観光学院に観光創造専攻が設置される

観光地域マネジメント寄附講座（JR東日本、JR北海道）が設置される



2009年3月　観光創造専攻修士課程（博士前期課程）14名が修了

4月　次世代ツーリズムの創造に関する総合的・学術的研究プロジェクト開始（文科省特別経費）

9月　観光創造専攻修士課程（博士前期課程）2名が修了



2010年3月　観光創造専攻修士課程（博士前期課程）15名が修了

4月　クボタ・農地再生・ふるさと起業寄附研究部門（株式会社 クボタ）が設置される

寄附講座等により教員2名を配置。8名体制となる

学術研究員1名を配置する

8月　産学連携による実践型人材育成事業開始（文科省高等教育局専門教育課との連携事業）

9月　観光創造専攻修士課程（博士前期課程）1名が修了

北海道虻田郡ニセコ町と連携協定を締結

12月　観光創造専攻博士課程（博士後期課程）1名修了



2011年3月　観光創造専攻博士課程（博士後期課程）1名修了

観光創造専攻修士課程（博士前期課程）15名が修了

北海道銀行と連携協定を締結



2011年4月　CATS研究チーム体制構築（総括チーム、文化資源マネジメント研究チーム、観光人材育成研究チーム、観光連携研究チームの4チーム編成）

6月　北海道地域観光産業活性化人材養成等事業開始（経済産業省補助金）

9月　観光創造専攻修士課程（博士前期課程）1名が修了

11月　JICA技術協力プロジェクト（エチオピア案件）開始

2012年2月　岐阜県大野郡白川村と連携協定を締結

3月　観光創造専攻博士課程（博士後期課程）1名修了

観光創造専攻修士課程（博士前期課程）13名が修了

4月　観光地域マネジメント寄附講座（JR東日本、JR北海道）第2期が設置される

教員4名を配置12名体制となる

学術研究員4名を配置し学術研究員5名体制となる

北海道上川郡美瑛町と連携協定を締結



8月　JICA技術協力プロジェクト（ヨルダン案件）開始

9月　北海道富良野市と連携協定を締結

12月　観光創造専攻修士課程（博士前期課程）1名が修了

2013年3月　初代観光学高等研究センター長 石森秀三教授が退任

観光創造専攻博士課程（博士後期課程）1名修了

観光創造専攻修士課程（博士前期課程）14名が修了

クボタ・農地再生・ふるさと起業寄附研究部門が完了



4月　初代センター長石森秀三教授が「観光学高等研究センター特別招聘教授」となる

2代目センター長に西山徳明教授が就任

観光学高等研究センターの活動状況と研究チーム体制

観光学高等研究センターは2006年4月に創設。以来その基盤づくりに研究者が奔走しながらも、大学院観光創造専攻では、これまで75名の修士課程修了者と4名の博士課程修了者を輩出した（2013.3現在）。

また、観光創造研究の分野においても、地域が観光地域づくりを進める際の支援を行うプロフェッショナルとしての「観光創造士の資格制度構築の研究」、文部科学賞の「次世代ツーリズム創造研究（平成21年度～平成24年度までのプロジェクト研究）」「産学連携による実践型人材育成事業（平成22年度～平成25年度までのプロジェクト）」、経済産業省の「地域企業立地促進等事業（平成23年度～平成25年度までのプロジェクト）」、国際プロジェクトではJICA技術協力「エチオピア国シミエン国立公園及び周辺地域における官民協働によるコミュニティ・ツーリズム開発プロジェクト（平成23年度から4年次）」、「ヨルダン国サルト市における持続可能な観光開発プロジェクト（平成24年度から3年次）」のほか、すでにフィジー、ペルーなどのJICA事業への参画を行っている。



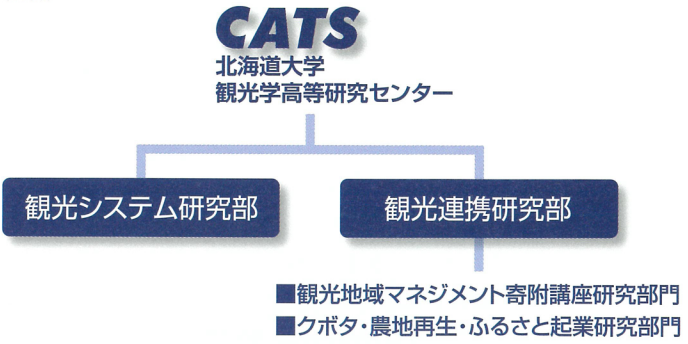


また、ニセコ町、白川村、美瑛町、富良野市との連携協定、北海道銀行との連携協定、札幌市、阿蘇市、宇治市、美瑛町、白川村、財団法人アジア太平洋観光交流センター（観光庁事業の再委託）からの受託研究の受入などで、観光創造研究を協力に推進してきたところである。しかしながら、国立大学初の観光に関する大学院教育の実施という未知の世界に挑戦するという高等教育機関として、また、観光創造学という新しい観光分野の確立のための高等教育機関として、その基盤整備に多くの時間と労力を傾注したこともあり、研究面での成果を十分に発揮できたかというと、研究者個々の活動は輝かしい成果を上げつつあるが、研究センターとしての組織的な取り組みは必ずしも十分とは言えないものがあったと考えるところである。そこで、研究センターは、2011年度から将来、全国共同利用・研究拠点となるべく、研究者の個別の研究活動を組織として支援するとともに、研究センターとして取り組むプロジェクトを厳選し研究チームを発足させ、スタッフ一丸となって組織力の向上に努めている。





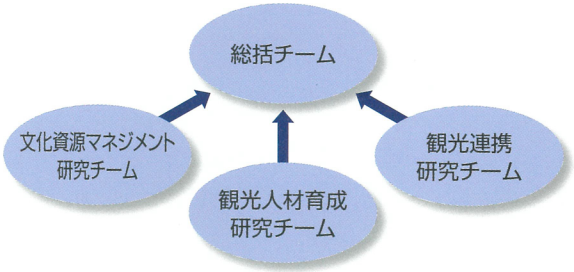
組織



研究チーム体制

観光学研究センターは、観光学分野のCOE（Center Of Excellence）として全国共同利用・共同研究拠点及び観光分野のCOC（Center Of Community）となるべく準備を加速しており、そのため、研究組織力の強化を図り、研究者の個別研究活動を組織として支援するとともに、研究センターとして取り組むプロジェクトを厳選するため、４つの研究チームを発足させた（2011年度発足）





総括チーム

次世代ツーリズムの創造に関する総合的・学際的研究

（平成21年度、文部科学省特別教育研究経費に採択）

観光の多様化により、従来の「マスツーリズム」とは異なる様々な「ニューツーリズム」が登場してきました。そして今後は、さらにハイクォリティ化、ローボリューム化が進み、ライフスタイルにより深くかかわる「次世代ツーリズム」が台頭してくるでしょう。

地域指導による「内発的観光開発」、あるいは観光者みずからの意思による「自律的観光」などのコンセプトをベースに、地域住民と訪問者がともに感動や幸せを共有できるツーリズムを研究しています。



■JR寄附講座プロジェクト

■クボタ寄附研究部門プロジェクト

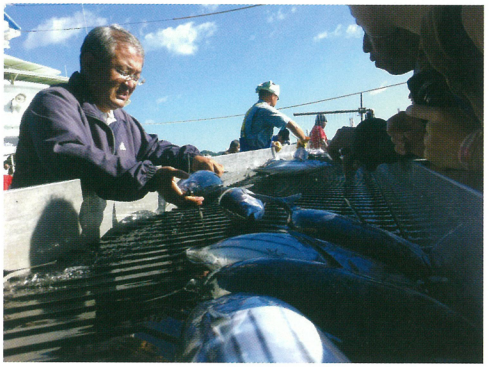
■震災復興研究プロジェクト

■各研究チーム総括及び相互調整











文化資源マネジメント研究チーム

ヘリテージツーリズムの研究

近年、自然遺産、文化遺産を問わず、遺産と観光が互いに求め合う関係はますます進化している。遺産の真正な価値を示す質の高い観光を実現することが、遺産に対する訪問者の理解を深め、遺産保護に必要な自国社会や国際社会の理解を促し、保護予算の獲得やとりまく地域の発展を可能にするのだ。

今後の北海道や日本国内、そして発展途上国におけるヘリテージツーリズムのあり方を入念なフィールド調査から探る。









コンテンツ ツーリズム

アニメも立派な観光コンテンツ ── コンテンツ観光立国を目指せ



地域に関わるコンテンツ（映画、テレビドラマ、小説、マンガ、ゲームなど）を活用して、観光と関連産業の振興を図ることを意図したツーリズムをコンテンツ ツーリズムと呼びます。

これらコンテンツを核として、地域・制作者・ファンはどのようなツーリズムを生み出しつつあるのか？ メディア技術の発達、コンテンツの多様化は、観光のあり方をどのように変えるのか？ 具体的現地調査を通して明らかにしていきます。





国際協力事業／JICA技術協力プロジェクト
エチオピア連邦民主共和国



シミエン国立公園及び周辺地域における官民協働による コミュニティー・ツーリズム開発プロジェクト

（2011年11月～2014年10月）

〈プロジェクトの目的〉

本プロジェクトはシミエン国立公園及び周辺地域において、行政、観光関連業者及び地域コミュニティーが一体となって観光開発促進のために協力して活動（官民協働）することにより、住民に裨益する持続可能な観光開発の仕組みを構築することを目的にしている。



〈上位目標〉

シミエン国立公園において、心地良いコミュニティーが観光活動に参加する機会を増やすことを通じて、地域コミュニティーの生計が向上するとともに、持続可能な観光が実現する。

〈プロジェクト目標〉

世界自然遺産シミエン国立公園及び周辺地域において、官民協働による住民に裨益する持続可能な観光開発の仕組みを実現する。

国際協力事業／JICA技術協力プロジェクト
ヨルダン・ハシェミット王国



サルト市における持続可能な観光開発プロジェクト
（2012年9月～2015年8月）

〈プロジェクトの目的〉

本プロジェクトはサルト市において、観光遺跡省（MOTA）を実施機関として、地方自治体、民間事業者を含む観光関連機関、地域住民等が一体となり、エコミュージアム構想に基づいた観光開発や歴史的建造物保全のしくみ、博物館を活用した観光システムの整備、観光商品の開発を実施することにより、地域の文化資源を活用して地域住民に裨益する観光開発の推進を図り、もってサルト市の都市遺産保全と地域住民の生計向上に寄与することを目的にしている。



〈上位目標〉

文化資源を活用した地域住民に裨益する観光開発が推進されることにより、サルト市における都市遺産が保全される地域住民の生計向上に資する。

〈プロジェクト目標〉

サルト市において、地域の文化資源を活用した地域住民に裨益する観光開発が推進される。

■文化資源マネジメント研究チーム

■観光立国のための地域資源マネジメントに関する研究

■アイヌ・先住民研究センターとの連携による研究プロジェクト

■札幌市観光振興計画策定プロジェクト



■JICA技術協力プロジェクト／ペルー

■海外協力事業：JICA事業／中南米における地域観光開発

観光人材育成研究チーム

エコツーリズムの研究

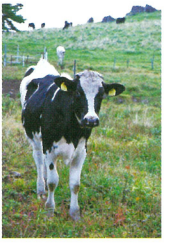
自然環境に影響を与えず、楽しみながら自然を学ぶ「エコツアー」が多くの観光客を惹きつけている。誰しも素晴らしい自然を体験したいからだろう。自然環境に恵まれた地域にとっては、地域資源のブランド化のチャンスである。

エコツーリズムの研究は、地域が地域資源をブランド化して戦略的に活用していくことを支援し、その実現の為に地域側のシステムを研究している。











地域ブランディングの研究

農水産物や伝統工芸品の振興のためには、個別の地域資源を別々に考えていては不十分である。一方、観光地の振興を狙う場合に、他の地域資源の支援によって観光地そのものの価値が高められることは珍しくない。

このように複数の産業間にシナジー効果をもたらしながらイノベーション創出を実現することが現代の地域活性化の課題である。そのため当チームでは、地域部ランディング研究にイノベーション論を融合させた研究を行っている。







観光創造士育成事業

＜観光創造士育成の必要性＞

①多様な観光ニーズへの対応

②地域観光資源開発＝地域再生
（雇用創出、経済発展、資源の有効利用等）

③広大なツーリズム市場の開発

④高度な専門性を有する地域の観光開発の担い手

⑤既存の多様な組織や地域における様々なステークホルダーなどとの調整

⑥国際的に通用する知識水準と資質

⑦地域資源の独創的な開発能力

地域発展

■観光人材育成事業
（北の観光マネジメントリーダー養成事業）

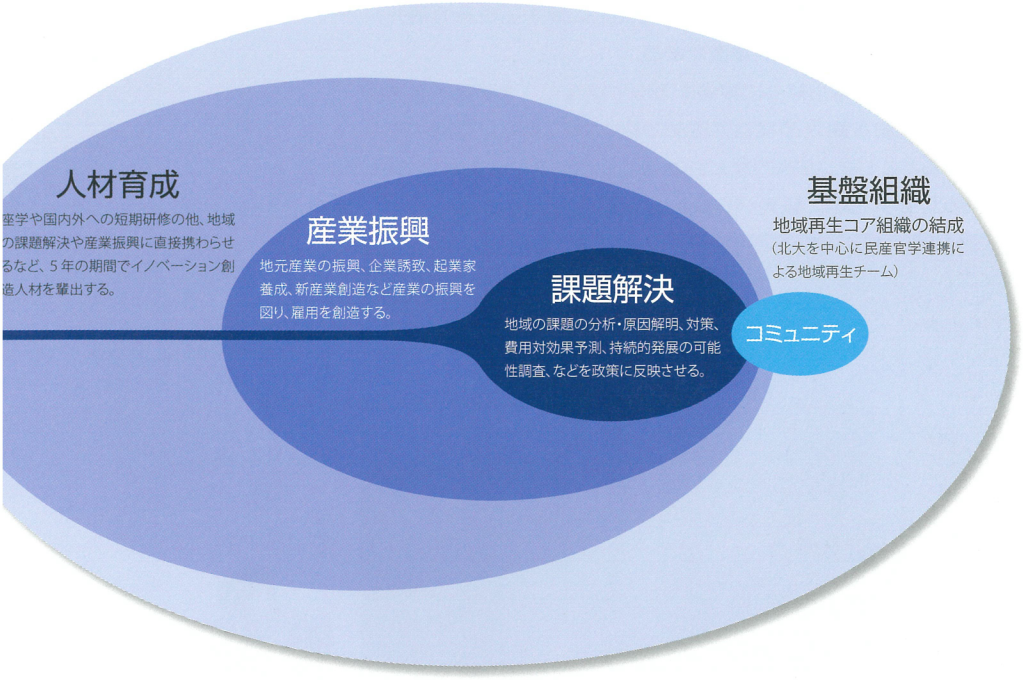
■「観光創造士」認定制度設計

■観光人材育成教材づくり事業

■産学連携による実践型人材育成事業



観光学高等研究センター
COC（Center of Community）と観光創造士の活動イメージ



■地域活性化を担う中核人材「観光創造士」育成事業

初年次／観光創造士育成の制度設計

2年次／カリキュラム・教材作成

3年次・4年次／教育・実習・フォローアップ

5年次／実践活動支援

観光連携研究チーム

観光の６次産業化の研究

農業の6次産業化（1次産業×２次産業×３次産業）が叫ばれているが、地域経済に貢献し、地域の活性化に資するための観光には、この６次産業の視点が重要である。

地域の資源をばらばらに提供するのではなく、1次産業×２次産業×３次産業を観光の視点で改めて組なおし、新しい交流の形を創造するとともに、継続的なビジネスとして定着させる方向での、地域のなりわい興し、観光ベンチャー、産業化を研究する。







グリーンライフ ツーリズムの研究

いのちの賑わいに満ちた田園でのグリーンライフ実現を図る旅や滞在の形。欧米では近年、ネオ・ルーラリズムのトレンドとして、田園と都市との２地域居住や季節移住、定年移住が盛んになってきている。

わが国でも都市生活者の半ば近くが田園暮らしを志向しており、ハウジングやクリエイティブ産業などの新たな雇用・所得機会の増大が見込まれるために、地域活性化への期待が高まっている。









■メディア・コミュニケーション研究院との
連携プロジェクト

■ニセコ町・美瑛町・富良野町・白川村・北海道銀行との
連携協定プロジェクト

■札幌市立大学との連携プロジェクト

■観光創造塾の立ち上げ・運営

2012年度
観光学高等研究センター受託研究一覧

2010年度

■阿蘇の文化的景観保存調査に伴う景観構造分析調査研究

■札幌の都市像及び観光動態に関する調査研究



2011年度

■平成23年度阿蘇の文化的景観保存に伴う景観構造分析調査研究

■北海道地域観光産業活性化人材養成等事業

■インバウンド観光を対象とする評価と認証に関する調査研究

■ ＪＳＴ社会研究開発
「都市部と連携した地域に根ざしたエコサービスビジネスモデルの調査研究」

■重要文化的景観「宇治の文化的景観」の整備に関する調査研究



2012年度

■美瑛町景観計画に関する調査研究

■美瑛町商店街コミュニテイ施設に関する調査研究

■美瑛町丸山通り線空間計画に関する調査研究



■重要文化的景観「宇治の文化的景観」の整備に関する調査研究

■白川村における観光マネジメント景観保全に関する研究

■北海道地域観光産業活性化人材養成等事業

■ ＪＳＴ社会研究開発
「都市部と連携した地域に根ざしたエコサービスビジネスモデルの調査研究」

■平成24年度阿蘇の文化的景観保存に伴う景観構造分析調査研究

■生物文化多様性から考える都市と地域の新たな関係に関する調査







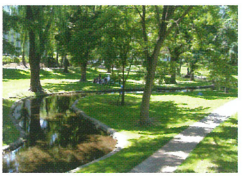
大学院（観光創造専攻）

観光学高等研究センター教員の研究業績を大学院観光創造専攻院生に教授することで、この分野の先駆者として次世代のツーリズム創造を担う人材育成は確実になされており、これまで輩出した修了者（修士課程75名、博士課程４名）は、それぞれが観光分野の中心的役割を果たすとともに、地域文化の発掘や地域産業の活性化による地域活性化に大きく貢献している。

また、大学院の授業とは別に観光学高等研究センター教員の研究活動にも院生を積極的に参加させており、国内外の研究フィールドで多様な現象に出会い学ぶ、議論する、結論を導き出す、などを繰り返す連続性のある教育研究を展開させている。







観光創造専攻の教育理念〈観光創造に必要な３つの力〉

地域における観光創造を実現していくためには、地域が有する自然資源、文化資源、人的資源などを、持続可能な形で活用するとともに、地域社会における公共的合意形成を図ることが求められる。こうした点をふまえて、観光創造専攻においては、以下の３つの能力を育成していくことを教育理念としている。

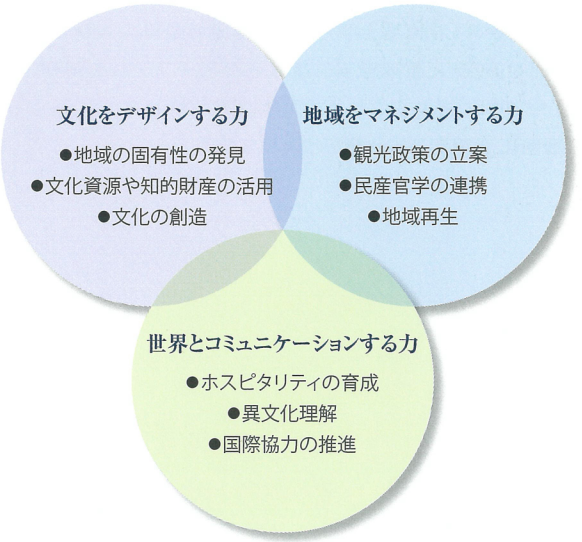
「文化をデザインする力」は、地域が有する文化資源を活用化させ、地域住民と観光者双方に満足感を提供できる能力。

「地域をマネジメントする力」は、観光創造を基軸にして地域再生を推進する際に重要な役割を果たす専門能力を提供できる力。

「世界とコミュニケーションする力」は、世界を舞台に活躍する際に必要な国際コミュニケーション能力。

これらの３つの能力を基礎として持ちつつ、いずれかの能力において特に秀でた観光創造の専門家を育成することを目指しているのである。





Tourism
Human Resources
Development Project

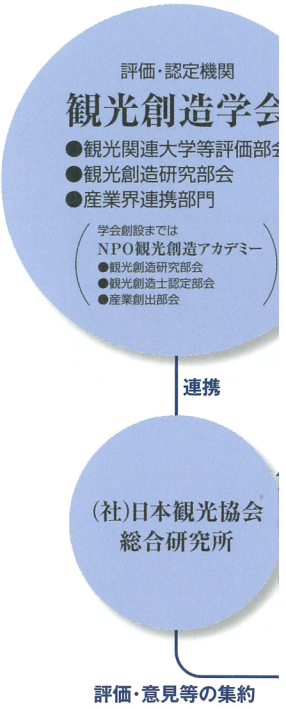
特別プロジェクト

産業界等と連携した観光関連大学等の職業教育の評価・認定システム構築プロジェクト

このプロジェクトでは、ツーリズムを「観光を含めて目的を問わず人が旅をして滞在すること」と定義しているUNWTO（World Tourism Organization 世界観光機関）の視点に立ち、観光産業を旅行・宿泊・運輸業という限定分野にとどまることなく、健康・スポーツ・美容産業など広範な業界がかかわる産業としてとらえ、これら広義の観光関連産業界の求人ニーズと大学等教育機関における職業教育のマッチングを図っていく。大学人としての知識・教養と観光に関する知識・能力を備えた人材育成は、「観光立国」に取り組む我が国における国家戦略上も極めて重要な取り組みといえる。

本プロジェクトは、広義の観光関連産業が抱く大学への期待とニーズを把握し、そのニーズをもとに学生を育成する大学等の職業教育の特徴を評価・認定する基準を構築。この基準による評価・認定の結果を観光関連産業へ周知するとともに連携を図り、観光関連大学等がその教育や育成される人材の特徴を積極的にアピールする。

その主体となるのが産学連携による「観光関連大学等教育評価委員会（代表校：北海道大学）」。観光関連産業界の人材ニーズの調査・分析を実施し、職業教育に関する評価システムを制作。その成果を、大学等に提供することで教育機関が教育プログラム・システムの改善に活用できる仕組みづくりを行う。

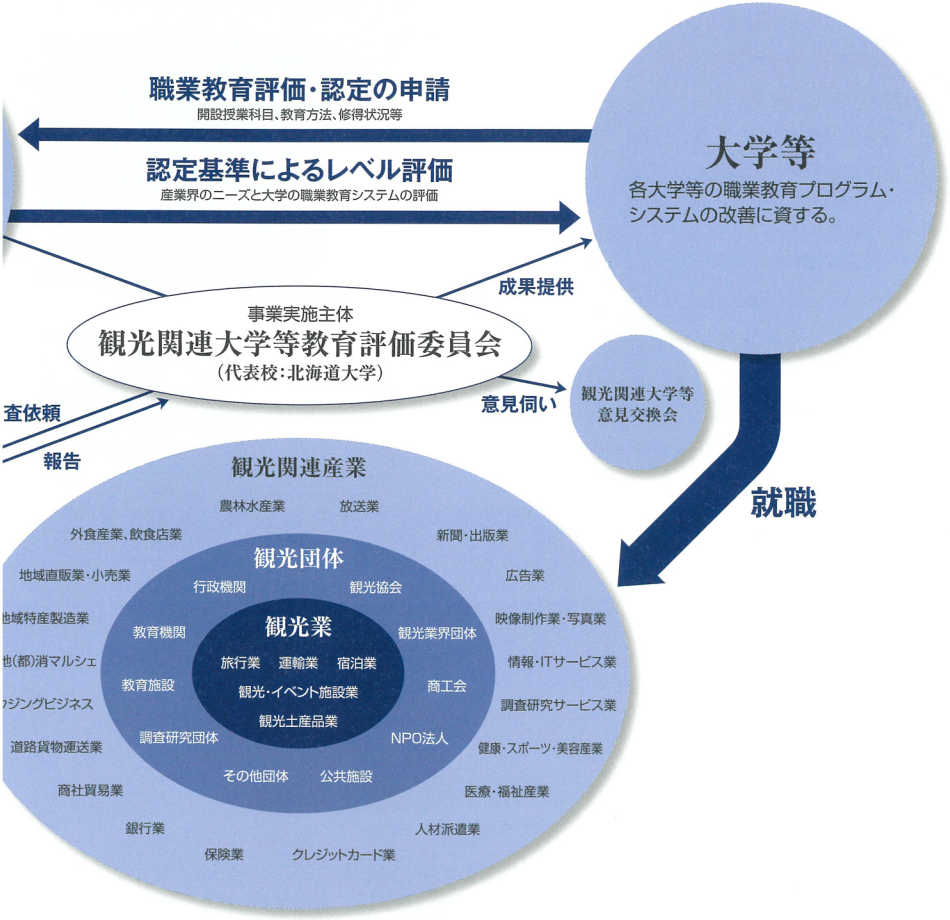


観光関連大学等の学校種を超えた
職業教育の評価・認定の仕組み

UNWTO（世界観光機関）では、2008年にツーリズムを交易、保養、学び、親戚や友人に会うこと、巡礼、コンベンションや観光など目的を問わず、一日以上、一年以内、旅をして滞在するすべての事を「ツーリズム」と定義

プロジェクトが期待する成果・目的

1. 観光関連産業界と観光関連大学のミスマッチを解消し、学生の就職率を高め、社会への円滑な移行を図る
2. 観光関連産業の定義を明確化し、観光関連大学等卒生の就職先の拡大を図る
3. 長期的には、21世紀のわが国の経済社会の発展の姿である「観光立国」を推進する職業教育の体制づくりに貢献する。



研究成果の社会還元事業

【公開講座、観光創造フォーラムの開催】

観光学研究センターの研究成果を社会還元するために「公開講座」、「観光創造フォーラム」を開催している。開催は年４回程度で、観光学高等研究センター教員の研究成果発表と部外から特別講演、有識者を招いてのパネルディスカッションという構成である。





【公開講座】
2008年度「ユネスコ世界遺産とツーリズム」
2009年度「地域再生と観光の力」
2010年度「旅の楽しさを考える」
2011年度「旅の記憶、まちの記憶、出会いの記憶」
2012年度「観光創造学への挑戦」

【観光創造フォーラム】
①ネオツーリズムの創造に向けて
②次世代ツーリズムと地域活性化
③メディアコンテンツと次世代ツーリズム
④ツーリズム・イノベーション
⑤地域再生のための観光創造
⑥情報化社会における新たな観光資源の創造
⑦観光の地域ブランディング
⑧観光と地域イノベーション
⑨サブカルチャーとツーリズム、そして次世代の地域振興
⑩地域づくりのプラットホーム「地域づくりの視点」
⑪観光地「洞爺湖」は復活するか
⑫鉄道の魅力とその多様性を探る









【観光創造コロキアムの開催】

観光創造に関連する最新の動きを紹介するために「観光創造コロキアム」を開催する。開催はフォーラムと同じく年４回程度。外部から講師を招き多様な活動を紹介していただいた後、ディスカッションを行うもので、教員や院生が視聴主体となるもの。部外者の参加も可能である。

①Homo movens（移動する人）としての人間
②セネガルPetite Cote 地域における自然保護区の比較研究
③観光地づくりにおける他者のかかわりとレジティマシー
④地域観光とは何かについて考える
⑤地域づくりと図書館について考える
⑥英国における森林管理とグリーンジム
⑦なぜ日本の若者は海外旅行に出かけなくなったのか？
⑧観光とCSR
⑨地域観光とコンテンツ戦略
　～映画を通してみる北海道の可能性～
⑩広域連携する観光資源
　～北海道ガーデン街道協議会の試み～
⑪社会における観光創造の地平
　～企業と社会の新たな関係構築を目指して～
⑫北海道を盛り上げるために何ができるか
　～（株）HMカンパニー社長の発想に学ぶ～
⑬クイーンズランド大学の観光教育に学ぶ人材育成
⑭知床の生態系の観光利用と保全　～地域資源の視点から～
⑮スイス・ツェルマットから考える北海道の未来
⑯持続可能な地域イノベーション
　～北欧アムステルダムの事例研究から～
⑰観光がつなぐ企業と地域

出版物・新聞掲載

CATS叢書の刊行

第一号「メディアコンテンツとツーリズム」／2009年３月25日発行

第二号「文化を読み直す」／2009年６月15日発行

第三号「コミュニティ・ベースド・ツーリズム事例研究」
／2010年２月１日発行

第四号「次世代まちおこしとツーリズム」／2010年３月20日発行

第五号「観光と図書館の融合」／2010年７月１日発行

第六号「地域社会による文化資産マネジメントとツーリズム」
／2012年３月31日発行

第七号「観光資源としてのコンテンツを考える」／2012年３月31日発行



調査研究報告書

「産業界と連携した観光関連大学等の職業教員の評価・認定システム構築プロジェクト報告書」／2011年３月31日発行

「産学連携による実践型人材育成事業パンフレット」
／2011年３月31日発行

「ニセコ町海外投資に関する基礎調査報告書」／2011年３月31日発行

「地域ビジネス創造コーステキスト」／2011年３月31日発行

「ニューツーリズムによるまちおこし」／2011年３月31日発行

「インバウンド観光を対象とする評価と認証に関する調査研究」
／2012年３月15日発行

「観光創造士のあり方についての報告書」／2012年３月18日

「地域資源を活かしたニューツーリズムによるまちおこし」
／2012年３月31日発行

「クボタ・農地再生・ふるさと起業寄附研究部門研究報告書」
／2013年３月31日発行

「観光を切り口にしたまちおこし地域ビジネスの進め方」
／2013年５月発行予定

「次世代ツーリズムの創造研究報告書」／2013年５月発行予定

新聞掲載等

日本経済新聞「ゼミナール」35回連載
／2008年７月21日～2008年9月８日）

（以下、観光学高等研究センター長　石森秀三の連載）

観光経済新聞「視点日本の観光」／2006年5月1日～現在に至る

旬刊旅行新聞「観光革命　地球規模の構造的変化」
／2006年5月1日～現在に至る

読売新聞「風向計」／2008年6月6日～2011年9月8日

歴史文化研究所「月刊小樽学」／2009年4月～現在に至る

広報資料

CATS 概要製作・配布

CATS 手提げ袋製作（シンポジウム開催時などに配布資料持ち運び用に配布）

北海道大学観光学高等研究センター
スタッフ

石森 秀三 特任教授（センター長）

敷田 麻実 教授　　西山 徳明 教授

臼井 冬彦 特任教授　　南 俊夫 特任教授

内田 純一 准教授　　山村 高淑 准教授

池ノ上 真一 特任助教　　八百板 季穂 特任助教

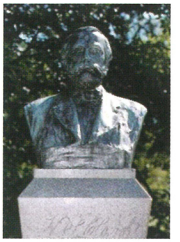
花岡 拓郎 特任助教　　村上 佳代 特任助教

麻生 美希 特任助教　　松本 秀人 学術研究員

伊東 美菜子 学術研究員　　大迫 理沙 学術研究員

石川 満寿夫 学術研究員　　宮城島 崇人 学術研究員

（2013年３月現在）





客員教授

川辺 紘一（事業総合大学院大学 教授）

小林 英俊（公益財団法人 日本交通公社 常務理事）

小林 天心（亜細亜大学 経営学部 教授）

萬宮 千代（株式会社KMC 開発部長）

客員准教授

遠藤 正（北海道電力株式会社 発電本部）

山田 桂一郎（JTIC SWISS 代表）

兼務教員（大学院観光創造専攻国際地域文化論講座担当）

宮下 雅年 教授（大学院メディア・コミュニケーション研究院所属）

山田 義裕 教授（大学院メディア・コミュニケーション研究院所属）

西川 克之 教授（大学院観光創造専攻長、大学院メディア・コミュニケーション研究院所属）

清水 賢一郎 准教授（大学院メディア・コミュニケーション研究院所属）





北海道大学
観光学高等研究センター
HOKKAIDO UNIVERSITY CENTER FOR ADVANCED TOURISM STUDIES

〒060-0817 札幌市北区北17条西８丁目
TEL.011-706-5410　FAX.011-706-5362
http://www.cats.hokudai.ac.jp/



北海道大学
観光学高等研究センター
HOKKAIDO UNIVERSITY CENTER FOR ADVANCED TOURISM STUDIES